

「主イエス・キリストの恵み、神の愛、 聖霊の交わりが、あなたがた一同と共にあるように」(Ⅱコリント13章13節)

○麻生明星幼稚園での5年間を振り返って



麻生明星幼稚園に着任して5年間、忙しくも楽しい日々を過ごしてきました。長女が小学校に通い始めて1年がたちましたが、それでわかったこと。それは「幼稚園」という場所は保護者にとっても、子ども自身にとってもなんと優しく、なんと配慮があり、なんと幸いな場所であったかということです。

1学期が始まり小学校生活にもようやく慣れてきた頃、娘が学校に行きたくないと言い出しました。どうやら友人といざこざがあってそれがこじれたようで、心がもやもやしていたようです。幼稚園では何かトラブルがあったときには必ず教師が仲立ちに入り、子どもの話を親身になって聞き、「ごめんね」「いいよ」と必ず子どもが納得してから家に帰るように促すのが基本でした。そうしたことで「人生の基本」を学ぶのが幼稚園なのですが、小学校では「教科としての学習」を行う場です。時間の関係で教師が子どもの話を親身に聞くということができないのでしょう。それで、これまでは幼稚園教師が解決して家に帰してくれていた課題を「家」で解決する必要が出てきました。これまで、子どもがまっすぐに育っていくために必要な「愛」と「鍛錬」をどれだけ幼稚園教師がしてくれていたのか。子どもと向き合う必要性を改めて再認識をする毎日です。また、毎日情報量の多い手紙、忘れてはならない提出物等々・・・日々、親が用意すべきものが示されます。子どもは吹雪でも一人で学校に行かなければなりませんし、低学年の頃の忘れ物は親の責任です。大人も子どもも幼稚園は天国のようであったというのが実感です。

先日、園長転任の知らせを受けて多くの方が驚かれたと思います。園長自身、山あり谷ありの子育ての最中であって麻生明星幼稚園と保護者の皆さんにたくさん助けられてきました。せっかく与えられたこの地縁を失うのは厳しいものがあるのですが、小中高とお世話になった母校で牧師として働くようにとの主の呼びかけに応える決断をいたしました。園長は替わりますが、教育の内容は変わりません。そうそう、最後の仕事として幼稚園のHPをスマホ対応にしましたので、どうぞご覧ください。また、春休みに冷房設備の設置も行います。どうぞ引き続き子どもたちの将来のために共に働いてくだされば幸いです。どうか皆さんお元気で。麻生明星幼稚園のみなさんの上に、主の祝福を祈ります。

麻生明星幼稚園 久保哲哉